

令和5年度小学校教科担任制



廿日市市立廿日市小学校

1 本校の高学年の専科指導及び高学年担任による学級以外の授業

本校では理科，音楽科，家庭科において専科指導が行われている。国語科，社会科，算数科，外国語科，図画工作科，家庭科において，担任が学級以外の授業を行っている。第5学年は，4学級のため，1組と2組，3組と4組の担任が，それぞれ2学級間で国語科，算数科，外国語科，図画工作科，家庭科の授業を分担して行っている。第6学年は3人の学級担任で国語科，社会科，外国語科，算数科の授業を分担して行っている。内訳は以下の通りである。それぞれの担任が，自分の専門性を生かせる教科を担当している。

担任する学級	指導する学級	教科名
5-1	5-1, 2	国語科，図画工作科，家庭科
5-2	5-1, 2	算数科，外国語科
5-3	5-3, 4	国語科，図画工作科，家庭科
5-4	5-3, 4	算数科，外国語科
6-1	6-1, 2, 3	国語科
6-2	6-1, 2, 3	社会科，外国語科
6-3	6-1, 2, 3	算数科

2 本校の取組

- ・各学年，学年会を週1回設けている。学年会で話される主な内容は次の通りである。
 - ①児童(配慮児童，気になる児童など)について
 - ②各教科の情報(進捗状況や宿題，提出物の確認等)の交換
 - ③学習規律の確認 等
- ・宿題を学年で統一している。宿題のチェックは各担任が行うため，宿題の解き方や要点については，担任同士で確認して揃えるようにしている。
- ・保護者への情報提供として，4月の学年だよりで教科担任制であることをお知らせし，4月の学級懇談会で教科担任制のメリットについて紹介し，学級担任みんなで子供達を育てていくことをお伝えした。

3 第1回小学校教科担任制アンケート結果 (令和5年5月31日～6月13日)より

【児童】

- ・「教科担任制になってよかった」「授業内容がよく分かる」「授業が楽しみ」など，肯定的な回答の平均は86.7%だった。県全体では88%だった。県平均よりは低いですが，教科担任制を肯定的に捉える児童が多いことが分かる。
- ・教科担任制が中1ギャップの不安解消と考える児童は，87.9%と，県平均の80.1%を上回った。
- ・「先生と話す機会が増えた」「悩みを相談できる先生が増えた」と考える児童は，どちらも県平均を大きく上回った。教科担任制になることで，担任との時間はこれまでよりも少なくなったが，その分，複数の先生たちとの関係を深められることを肯定的に捉える児童が多いことが分かる。また，授業内容が分かり，授業を楽しんでいる児童も多く，人間関係と学習面の両面で教科担任制に対する児童の満足度は高いと考えられる。

3 第1回小学校教科担任制アンケート結果 (令和5年5月31日～6月13日)より

【教員】

- ・教材研究の深化や教材の工夫による授業改善, 教材研究の時間の増加, 系統的な指導など, 学習指導面での肯定的な回答が多かった。これらの結果から, 教科担任制の導入により, 授業準備に割ける時間がこれまでよりも増え, より教材研究を充実させることができたと考える教員が多いことが分かる。

4 教科担任制のメリットとデメリット (アンケート結果と職員の声より)

【メリット】

- ・同じ授業を3～4回することができるので, 授業の組立てや進め方の反省を生かしながら授業ができ, 自分自身の勉強にもつながる。
- ・学習面や各学級の雰囲気の変化や気になる児童の様子などについて, 担任間で密な連携をして, 対応策も一緒に考えることができる。
- ・学年の全児童の実態を把握できるため, 担任全員で対応することができる。
- ・これまでよりも, 効率的に教材研究や評価を行えるようになった。

4 教科担任制のメリットとデメリット (アンケート結果と職員の声より)

【デメリット】

- ・全担任に関わってくるので、出張や休暇取得で誰かが不在になった場合の調整が難しい。
また、行事等による時間割の変更も難しい。
- ・個のつまずきに対し、より細やかに対応することが難しい。学年の授業進度に合わせて宿題を出すので、学級実態に合わせて繰り返し同じ宿題を出したり、宿題の調整をしたりすることが難しい。
- ・他の学級の児童で学習につまずいている児童がいた場合、授業時間外に重点的に指導することが難しい。休み時間や放課後を使うことになるので、頻繁には補習しづらい。